

1. 保育事業報告

4 月 0 歳児は新入園 3 名でスタートしたが、定員 6 名を満たしたのは 11 月と後ろ倒し（昨年度は 9 月）となった。これは全国的な少子化による 0 歳児の減少と育休制度の普及が大きな理由であるが、最寄りの流山おおたかの森駅付近に保育園が多いことも影響している。今後 0 歳児保育の需要が増大する見込みはないと流山市長との懇談でも再三説明されており、地域の子育てへの願いに応えるかやの木保育園の創設理由からも 0 歳児の受け入れ方を再考する年となった。年度当初から定員 6 名分の 0 歳児担当保育士を 2 名配置しておかなければ全国的保育士不足のなか途中採用ができない状況が長年続き、0 歳児入園の後ろ倒しは収入のない状態での雇用の長期化で経営を圧迫することも再考理由となった。

1 歳児の入園希望者は多く、定員 15 名に対し 4 月は 13 名（進級児 2 名、新入園児 11 名）でスタートし、最大 19 名まで受け入れた。今年度 2 歳児は満 3 歳になった年度途中や年度末で幼稚園等他施設に移る家庭が複数見られた。育休の長期化や就労以外の入所理由（育児疲れ等）が子の成長と共に解消され退園するという、今までにない状況が見られた。保護者の意識や動向を捉えることが必要になっている。

三輪野山、初石など近隣に留まらず、美田、東深井など北部地域の宅地開発が進み園見学に来られる家族が増加した。北部地域の方からは「近隣に保育園が少ないのでエリアを広げて見学している」という声が多く聞かれた。又、都内から転居予定の方からホームページを見て「自然環境が良さそう」「園庭が広い」「子どもが自由に遊ぶことを大事にしていそう」「異年齢の保育が良い」などの理由で園見学の問い合わせが複数見られた。利便性だけでなく保育環境や保育内容に関心を持って入園を検討される保護者が一定数存在することを意識し、少子化の時代かやの木保育園をわかりやすく知らせる取り組みがより一層重要である。

都市軸道路工事による迂回は 2 年以上経過しても先が見えず、園見学に見えても日々の送迎負担に入園をキャンセルされる保護者もある。東葛土木からは「北千葉浄水場から地盤改良に求められている方法が非常に高度で高額な為、すぐに予算が通る見通しが持ちにくい。保育園への仮設進入路を東葛土木内で検討している。」と説明があった。一日も早い仮設道路建設を法人と協力して要望していく。

「子どもの主体性を育む保育」と「子どもと一緒に創る行事」について、保育環境の整備とともに幼児担当保育者達と研修・研究を進めた。子どもの興味・関心を捉え、子どもと一緒に創る保育の楽しさに気づく若い保育者、これまでの大人主導の保育からの脱却に苦悩する経験者と様々であった。しかし実践してみると子どもの表情や姿が大きく変化したことに喜びと保育の質の転換の必要性を感じた一年であった。保育者自身の主体性を支え、学びと実践を共に重ねていく。

かやの木保育園創設から 25 年が経過し、子どもをめぐる状況は大きく変化している。地域や家族、子どもの状況を捉え、その変化に対応した保育に取り組む園となれるよう施設改修を行った。今年度は三期に分けて幼児保育室を中心にクラス間の壁を抜き、4 部屋から広い保育室 2 部屋に変更した。次年度から 3・4・5 歳児 31 名 2 クラスで保育を行うためかわせみ組のトイレ増設工事を行った。保育を継続しながらの工事のため 5 歳児は引っ越しを繰り返すことになっ

たが、新しい環境に柔軟に対応・工夫できる子ども達の成長を実感する機会でもあった。次年度からリニューアルした保育室をどのように活用し、保育を充実させていくか課題となる。

地域子育て支援センターかるがもでは地域の子育て状況や悩みを利用者の声から掴み、多胎児を持つ家庭向けの「ふたご・みつごフロアー」、発達気になる子を持つ家庭向けの「てくてくかるがも」、土曜休みの父親や園庭での外遊びを求めている家庭向けの「土曜かるがも」などブラッシュアップしながら取り組んだ。会場場所、専門家との連携、安心して遊べる場の提供など、課題を解決しながらフロアー開放だけではできない子育て支援につなげている。

一時預かり事業やまばとは昨年度から課題の職員体制が整い、年間を通じて一日 9 名～15 名を受け入れ、年間利用数が 7000 名を超えた。「満 3 歳になったら幼稚園入園」が近年流山市では一般的になり、年度後半に 2 歳児利用は減少。同時期から 0 歳児の新規利用が増加するため、年間を通じてまんべんなく利用者がいる状況になった。育休取得者の増加や育休期間の長期化など子育てに疲れを感じる保護者は多く、地域子育て支援センターで一時預かりの利用を進められたり、実際に預けた経験がある保護者からやまばと利用を促されるなど口コミで評判が広がっている。通常保育の 0 歳児の需要減少と反比例して、一時預かりの 0 歳児の需要増加は今後も進むと考えられる。一時預かり事業での 0 歳児受け入れを積極的に進めていく。

保育事業全体を振り返ると少子化や働き方など社会が大きく変化し、そこに対応する保育園の在り方を考え直す一年であった。かやの木保育園が地域の中でなくてはならない存在として存続できるよう、職員と共にあゆみを進めていきたい。そのためにも職員が安心してやりがいをもって働き続けられる職場づくりを法人と協力して進めていく。

2. 保育活動

(1) 保育園の運営

・所在地：千葉県流山市大畔 198

・児童受け入れ人数：100 名（令和 8 年 3 月 1 日現在）

0 歳児… 6 名	1 歳児…19 名	2 歳児…16 名
3 歳児…18 名	4 歳児…20 名	5 歳児…21 名

(2) 開所時間

11 時間開所保育時間：午前 7 時から午後 6 時

延長保育時間：午後 6 時から午後 6 時 30 分

特別延長保育時間：午後 6 時 30 分から午後 7 時（月～金）

土曜保育時間：午前 7 時から午後 6 時 30 分

(3) 閉所日

日曜日、祝日、年末年始（12/29～1/3）、3/31

(4) 職員配置（令和 8 年 3 月 1 日現在）

常勤職員	： 26 名	園長	1	保育主任	1	副主任	1	保育士	18
		保健師	1	栄養士	3	事務員	1		
非常勤職員	： 14 名	保育士	7	保育補助	1	調理補助	3	用務	2
		保育アドバイザー	1						
嘱託職員	： 2 名	嘱託医	1	嘱託歯科医	1				

3. 保育内容

正規保育士 10 名、準保育士 9 名、短時間保育士 7 名体制で保育を行った。

乳児は 0 歳児と低月齢 1 歳児のめじろ組、高月齢 1 歳児と 2 歳児のうぐいす組の 2 クラスで保育を行った。

めじろ組は 0 歳児 6 名と 1 歳児 12 名で月齢幅が大きい子どもの発達に合わせた環境づくりが課題であった。8 月にクラスリーダーが産休に入り、日々の安全と落ち着きは保たれたが、環境づくりについては主任の援助を受けての取り組みになった。受け入れコーナーに柵と扉を設置し送迎時に落ち着いて対応できる環境を整えた。

うぐいす組は初めてリーダーとなった若い保育士と新卒保育士、準保育士の 3 人でクラス運営を行った。経験のある準保育士が若いリーダーを支え、若いリーダーは新人の声をよく聞くことで支え合う姿となった。経験は浅くても 3 人が協力し合い、クラスの子ども達を温かく見守る雰囲気は保たれたことは子ども達の落ち着きに繋がった。雨天や暑さの厳しい時期に室内に運動スペースを設けて継続的に運動遊びを行った。広くなった保育室を活用して異常気象下でも子どもの発達を保障する保育に繋がった。

幼児は 2・3・4 歳児混合クラス、3・4 歳児混合クラス、5 歳児単独クラスの 3 クラスを 2 歳児・要配慮児対応の加配保育士を交えて 6.5 名体制で保育を行った。6 月から園長・主任を交えた月案会議を行い、「子どもの主体性を育む保育」と「子どもと一緒に創る行事」について子どもの姿から一緒に考えあった。子どもの興味関心を捉え、子ども自身が探求することを楽しめる保育者の援助についても互いに学び合った。アプローチの仕方を変化させ子ども達の表情や姿が大きく変化したことは、保育者の励みに繋がった。子どもの興味関心が広がり、深まっていく喜びを保育者も一緒に楽しみながら、今後そこにどんな育ちや学びがあるか、保護者に伝える力をつけていく。

4. 幼保小連携

流山市幼児教育支援センターの事業計画に基づき、「幼保小合同研修会」「幼児教育希望研修」「小学校見学会」「幼保小連携の日」「架け橋期教育の充実に関する研修会」「小学校引継ぎ会」に参加した。

研修では小グループで小学校教員等と話し合う機会が増え、近隣の保育園や幼稚園の保育を知る機会になった。2026 年度からは「架け橋プログラム」を流山市でも試行的に作成し始めるため、先進自治体の例を含めて考え方を一緒に学ぶ機会になった。

流山北小学校 1 年生担任教諭の異業種研修の受け入れを行った。年長クラスで子ども達の遊びや生活の様子を一日見学・体験してもらった。1 年生を迎え入れる立場から、年長児の姿を見ていただけたことは学校生活に子ども達がスムーズに移行できる可能性を広げると同時に、子どもも大人も互いの顔を知っている安心感につながると感じた。

5. 配慮の必要な子どもの保育

児童発達支援センターで発達検査を受け療育の必要性がある場合は療育受給証が発行される。今年度療育施設と併行通園をしている子どもは 2 歳児 1 名、3 歳児 1 名、4 歳児 2 名、5 歳児 4 名で、他にも経過観察中の子どもが 4 名おり、配慮の必要な子どもは二桁と多い。各々配慮す

べき点や援助方法が異なるため、個別の援助計画を立て職員間で共有し関わっている。子どもの援助はクラス担任を中心とした保育士が責任を持ち、保護者対応と他機関との連絡調整は保育主任が責任を持つなど役割を分けて対応した。

3歳児健診や嘱託医による健診結果から、保護者が発達検査を申し込み、2歳児2名、4歳児1名が次年度から療育につながった。日頃から子どもの姿や発達状況を担任が伝える努力をしていることも力になったといえる。

6. 保護者支援

父親の体調不良による相談1件、子どもの発達に関する相談2件、家族関係に関する相談1件。

保護者からの日常における相談は主任がクラスから家庭の状況を聞き取り、必要に応じて面談を行った。経験の浅い担任のクラスについては主任から気になる保護者には声をかけ、状況を捉えてクラス担任と共有するようにした。

7. 他機関との連携

(1) 流山市幼児教育支援センター巡回相談

4歳児 1名

(2) 療育施設への併行通園

2歳児 1名 3歳児 1名 4歳児 2名 5歳児 4名

(3) 子ども家庭課

支援措置児童 3歳児 1名

相談 4歳児 1名

8. 保健衛生

- ・園児定期健康診断 乳児 年3回 幼児 年2回
- ・園児定期歯科検診 1歳児から5歳児 年1回
- ・園児身体測定 12回
- ・職員健康診断 1回
- ・職員インフルエンザ予防接種補助 1回
- ・調理員・保育士腸内細菌検査 18回

9. 給食

- ・0歳児 授乳、午前食、午後食、水分補給
- ・1歳児～2歳児(9月まで) 水分補給、午前食、午後食
- ・2歳児(10月)～5歳児 水分補給、昼食、午後軽食

管理栄養士2名、栄養士1名、調理補助1名体制で業務を進めた。念願の正規栄養士3名体制が整い、乳児・幼児の担当を決めて継続的に子どもの発達状況を捉えた調理の研究に取り組むことができた。担当を決めたことで保育士との連携が進み、子どもの姿を共有して業務改善に活かすことができた。

10. 地域子育て支援拠点事業

保護者の思いやニーズを聞き取り、保育士・保健師それぞれの専門性を活かして地域で求められている支援に取り組んだ。専用ホームページを活用し、イベントの申し込みをネット予約方式に変更したことで参加者が増加した。24 時間いつでも予約が取れる事への感謝の言葉を利用者から聞くことができた。森の図書館に出向いての「おでかけかるがも」は、地域子育て支援センターがない北部地域で安心して親子が集え、地域の情報交換ができる場として定着している。

年度後半からは「かるがもピクニック」で古墳公園(森の図書館隣接)を利用し、散歩中の親子にかかるがもたよりを手渡して、支援センターや一時預かりを行っていることを知らせるようにした。お便りを見てかるがもに足を運んで下さる方や、一時預かりの登録に繋がった方もいる。

「てくてくかるがも」は嶺田理学療法士に毎回参加していただき、子どもの状態から必要な身体の動きやイスの高さ等、具体的にその子に必要な助言を受けられると好評であった。特に医療的ケアが必要でない障がい児を持つ保護者にとっては相談できる場所がないため、こうした場所の必要性を感じている。

11. 一時預かり事業

今年度から 10 ヶ月以上の 0 歳児の受け入れを開始。希望者が多く職員体制と利用メンバーを見て定数 3 名を超えて受け入れた。利用者が増える中、かやの木保育園が大切にしている保育を一時預かり事業にどのように活かすのか、担当職員の意識が問われる年となった。何を大切にするのか改めて職員が学び考え実践する中、「育児の担当制」と「流れる日課」が不定期に登園する子どもであっても生活の見通しと安心感をもたらすことに気づいた。

家庭で子育てする保護者の気持ちをふまえた一時預かり事業の必要性と共に、子どもの育ちを支える一時預かり事業のやりがい担当職員集団が掴んだことは、今後の保育の質の向上に繋がる大きな成果といえる。

12. 職員育成

- ・園内研修 年 10 回

- ・夏の合同研修 ワークショップ「手仕事～いろいろ、サイエンスあそび」

- ・キャリアアップ研修 6 名

- 「マネジメント」 : 湯浅久美子、大谷千佳

- 「食育・アレルギー」: 川崎恵里菜

- 「乳児保育」 : 柏倉久美子

- 「保健衛生」 : 保坂匡美、大谷千佳

- ・園外研修参加 延べ 78 名

- ・園内学習 7 回

- テーマ: 「感染症」「SIDS」「投薬について」「病気・ケガ・保護者対応について」

- 「熱中症対応・水の危険性」「防災対策」「ウイルス性感染症」「嘔吐処理」

1 3. 防災安全

- ・避難訓練 12回 (消防立ち合い訓練 2回)
- ・消火訓練 8回
- ・通報訓練 2回
- ・発電機訓練 1回
- ・不審者訓練 0回
- ・自主点検 12回
- ・貯水槽清掃 1回
- ・浄化槽法定検査 1回
- ・防災委員会
- ・職員防災ツアー
- ・非常用飲料水、食糧確保点検
- ・消防機材定期点検 (消防機材センター)
- ・110番通報システム定期点検 (ライフネット)
- ・エレベーター定期点検 (日立ビルメンテナンス)
- ・浄化槽定期点検 (ダイシンクリア)

洪水避難は避難訓練
に含まれる

1 4. 施設整備

- ・めじろ組 ウッドデッキ改修工事 (金野工務店)
- ・事務室 相談室の改修/エアコン設置 (金野工務店)
- ・かわせみ組改修工事 1期 壁の撤去 (金野工務店)
- ・かわせみ組 2期トイレ拡張/便器の増設 (進工社)
- ・かわせみ組壁塗装 (心工社)
- ・やまばと組受入れコーナーの扉設置 (金野工+務店)
- ・めじろ組受け入れコーナーの扉設置 (金野工務店)
- ・ほおじろ組改修工事 3期 壁の撤去 (金野工務店)
- ・給食室ガス台交換 (ホシザキ)
- ・保護者駐車場案内掲示板設置 (サイバーフェース)
- ・2階ガス乾燥機移動工事 (京和住設)
- ・玄関鍵交換 (小倉建設)
- ・1階玄関横トイレ換気扇交換 (金野工務店)